黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画



入 善 町

目 次

第1章	計画策定の背景と目的・・・・・・・・・・・・・ 1
	1 計画策定の背景
	(1)入善町のおいたち
	(2)入善町のまちづくり
	(3)入善町の現状に対する課題と今後の方向性
	2 計画策定の目的
	3 計画の位置づけ
第2章	計画の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
	1 フィールドミュージアムとは
	2 フィールドミュージアムの構成要素
	3 基本コンセプト
	4 活動展開の基本方針
第3章	中核拠点施設についての検討・・・・・・・・・・・・ 13
	1 中核拠点施設のコンセプト
	2 リピーターづくりのための来館者層の設定
	3 施設構成
	(1)施設の機能
	(2)必要諸室の検討
	(3) 施設規模の検討
	4 展示構成
	(1)展示テーマと展示の切り口
	(2)展示展開方針
	(3)地域の水に関わる歴史文化情報のデジタルアーカイブ化
	(4)展示構成

	(3)整備形態の評価
第4章	エリア拠点施設・サテライトの整備案についての検討・・・・・・ 47
	1 エリア拠点施設の設定
	2 サテライトの設定
	3 ルートプランの考え方
	4 サインシステムの考え方
	5 アクセス情報の提供とめぐる仕掛け
	6 移動手段の確保による周遊の促進
第5章	運営計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
	1 運営の基本方針
	2 具体的な取り組み例
	(1)啓発・学習支援活動の推進
	(2)交流・呼びかけの推進
	(3)住民による地域資源の掘り起こし
	(4)情報の発信・共有の強化
	(5) 地域の人材・組織の育成と水資源の保全
第6章	

5 候補地の検討

(1)基本的な考え方

(2) 中核拠点施設とエリア拠点施設の整備形態





第1章 計画策定の背景と目的

1 計画策定の背景

(1)入善町のおいたち

入善町は、広大な平野部をもつ稲作地帯ですが、古くはこのあたり一帯は黒部四十八ヶ瀬と称され、 親不知とともに北国往還最大の難所として知られていました。この扇状地がいつ頃から開拓されたか は明らかにはなっていませんが、「じょうべのま」遺跡には、平安時代の荘所とみられる建築物がみ つかっています。12世紀前半には東大寺の荘園、入善荘が成立し、南北朝時代には飯野に小佐味荘 も存在していました。その後、椎名、上杉、佐々、豊臣、前田氏によって支配されてきましたが、1658 年の領地替えで全域が加賀(金沢)藩領土となり幕末に及びました。

明治4年の廃藩置県により、町域は新川県に所属、明治9年には石川県に属していましたが、明治16年に入善町出身の県会議員、故米沢紋三郎氏(分県請願委員長)らの猛烈な分県運動により石川県より分県し、富山県となりました。

明治22年3月には町村制実施に伴い、入善町、上原村、青木村、飯野村、小摺戸村、新屋村、椚山村、横山村の1町7か村となりました。昭和28年10月にはこの1町7か村が新設合併し、新しく入善町が発足しました。昭和34年1月には舟見町(朝日町の野中分離地区が舟見町と合併)が編入合併し、現在に至っています。

入善町は、東に朝日町、南西に黒部市、北は日本海に面し、一級河川|黒部川が形成した我が国の代表的な黒部川扇状地の中央に位置しています。地形は、東西 12.2km、南北 16.5km で、周囲 42.5km、面積は 71.25 kmです。日本海に面した北側の海岸線は 11.5km で、それを底辺として南に尖った三角形をしています。

このように、黒部川が形成した扇状地を基盤に発展してきた入善町では、地域を代表する魅力ある 資源として「水」があげられます。黒部川の水は扇状地の中を伏流水として流れ、湧水となって扇端 部で自噴しています。また、扇状地上を流れる清冽で豊富な水は、農業用水として利用され、入善町 の姿を象徴するものとなっています。

(2)入善町のまちづくり

入善町では、平成23年度から平成32年度を計画期間とする「第6次入善町総合計画」を策定し、「扇状地に水と幸せがあふれるまち入善~人のきずなで未来につなぐ~」を将来像として、「きずな」を大切にしたまちづくりに取り組んでいます。

この将来像の実現に向けた基本となる考え方として、3つの基本理念と基本理念に対応した3つの基本テーマを設定しています。

基本理念

先人から受け継いだ貴重な財産を「**いかす**」ことにより、豊かな自然環境や産業基盤を築き、 うるおいのあるまちづくりをめざします。

うるおいある生活の中で、健康で快適に安心して暮らせる生活基盤を「つくる」ことにより、 生涯暮らしたいと思う豊かなまちづくりをめ ざします。

豊かな生活の中で、心豊かな人を育み、みんなが協力して地域を「になう」ことにより、将来にわたり元気なまちづくりをめざします。

基本テーマ

いかす

水と大地の恵みを「活かす」 まちづくり

つくる

快適・安心・健康のくらしを「創る」 まちづくり

になう

人が集い、力を合せて地域をともに「担う」 まちづくり

さらに、"水と大地の恵みを「活かす」まちづくり"においては、豊かな自然環境を保全・継承しながら、地域資源を活かした産業基盤を構築し、「水」に代表される地域資源を活かした観光や交流の振興をめざし、様々な施策の実施に取り組んでいます。

まちづくりの目標

①豊かな水、みどりを守り、 未来へつなぐまちづくり

(自然環境/地球環境)

政策の柱

①豊かな自然環境の保全と継承

(自然環境)

②地球環境問題への対応

(地球環境)

②地域資源を活かした 魅力あるまちづくり

(産業/観光)

③地域資源を活かした産業の振興

(産業)

④地域資源を活かした賑わいの創出 (観光・交流)

(3)入善町の現状に対する課題と今後の方向性

入善町の人口は、このまま推移すると毎年約350人ずつ減少していくことが予測され、特に若者層で潜在的に転出傾向が高い状況の中、人口の減少はそのまま生産年齢人口の減少につながり、今後の入善町にとって大きな影響を及ぼすと考えられます。

若者が減少すれば、地域の産業やまちづくりの担い手が減少するとともに、活力が低下し、地域には高齢者が取り残される事が危惧されます。保育所・小学校・中学校の生徒数は減少し、地域の商店も顧客の減少により廃業に追い込まれていく最悪のシナリオも考えられる中、若者の転出、婚姻件数の減少、出生数の減少という負のスパイラルに突入しないよう、重点的な施策の集中が求められます。

このような状況の下、人口減少問題を克服し、東京一極集中を是正して地域を活性化させるため、地方創生が国および地方で重要な課題となっています。国においては2014年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、入善町においても「まち・ひと・しごとづくり戦略」を策定するなど、国と地方が総力をあげて地方創生に取り組むことになっています。

人口減少を克服し、地方の創生を実現するためにも、若者の雇用を確保し、出会いがあり、産み育てやすい環境づくりを牽引する事業の柱として、「水と大地の恵みを活かすまちづくり」をこれまで以上に推進していく必要があります。

2 計画策定の目的

入善町の地域資源の中心には「水」があり、湧水をはじめとした水循環そのものから、水に関わる歴史文化、水の恵みによる産業活動なども含めて、町の自然、風土、歴史、産業などに深く関わっています。

入善町フィールドミュージアム構想では、先人たちの知恵と苦労で築いた水に関わる地域資源を活かし、創り上げ、引き継ぐために、それらを活かしたまちづくり、関わる人の人づくりの推進をめざします。

3 計画の位置づけ

上位計画となる町の総合計画、既に新川広域圏で取り組まれている水博物館構想(黒部川フィールドミュージアム)、園家山周辺水環境整備計画などの水環境整備に関わる町の各種計画との整合や、連携を考慮して策定された『入善町フィールドミュージアム構想』を関連上位計画として基本計画策定を進めます。

基本テーマ1:水と台地の恵みを活かすまちづくり

施策 1-1:豊かな水資源の保全

第6次入善町総合計画 【関連計画】 【広域計画】新川地域 **園家山周辺水環境整備計画** 水博物館構想 (黒部川フィールドミュージアム) ・活動の中心はフィールド活動と情報発信 ・湧水の魅力向上、交流機能の向上、資源 連携の強化により、園家山周辺における ・地域学芸員を中心とした活動 【関連施設】 拠点形成 ・黒部市地域観光ギャラリー内の展示空間 【主な事業】 「山・川・海のフィールドミュージアム」 • 湧水公園整備事業 【関連上位計画】 入善町フィールドミュージアム構想

黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画





第2章 計画の理念

1 フィールドミュージアムとは

入善町ではこれまで、全国的に見ても稀有な黒部川扇状地や扇状地に育まれた豊富な水など、扇状地に点在している水に係る資源を博物館とみなし、町全体をフィールドミュージアムとして整備しようとしています。このフィールドミュージアムでは、「水」を中心テーマに、住民が主体となって地域資源の活かしたまちづくりを進めることで、地域への誇り・愛着の醸成、地域コミュニティや地域産業の活性化をめざそうとするものです。

2 フィールドミュージアムの構成要素

フィールドミュージアムを構成する要素を以下のように設定します。

エリア

地勢やサテライトの分布でくくったゾーン

「台地・山間部」「扇頂部・黒部川部」「扇央部」 「扇端部」の4つのエリアを設定

エリア拠点施設

各エリアに配置される 中核拠点施設を補完する施設

主な役割はエリアのエントランスとなり サテライトへと誘導する

中核拠点施設(コア)

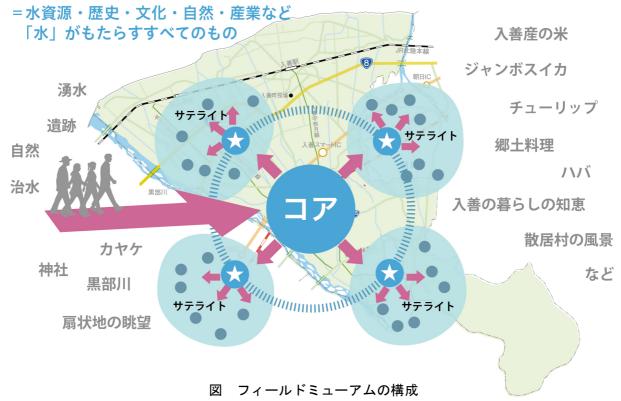
フィールドミュージアムの推進拠点として 中心機能をになう中核的施設

●サテライト (地域資源=「水の恵み」)

フィールドミュージアムの展示対象となる 自然や歴史・産業・文化遺産など、 無形・有形の地域資源のこと

湧水スポットや、河川・水路・堤防、植物や農作物、 公園緑地、水を活かした産業や施設、 洪水との闘いと河道の変遷など水にまつわる歴史や文化

「水の恵み」



3 基本コンセプト

水が巡って人が集う 水のまちのまるごとミュージアム

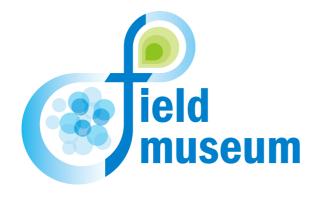
~水の循環(めぐり)が人の環を結ぶ~

黒部川や扇状地の水が育んだあらゆるものの素晴らしさをみんなで再認識し、それらを"まるごと" まちの大切な資源として、育み、守り、伝えていきます。「水」を中心に交流や活動が生まれ、 その活力やまちへの思いを、さらなる持続的なまちづくりのチカラへと変えていきます。

町に点在する魅力や人々がつながり、環が広がりながら成長していくフィールドミュージアムです。

【フィールドミュージアムのシンボルマーク(案)】

A案B案





上部の輪の部分は舟見山を表し、下部の輪は扇状地を表現しています。そのふたつの輪は無限大を表しており豊富な水資源が絶え間なく永遠に循環していく様を表現しております。そして二つの輪がクロスしている中央部分には field museum の f を記載しています。

またA案の青の3つの扇形は深層水、地下水、表流水をあらわしています。

【基本理念】

① テーマは、「水」がもたらす入善町のすべて

黒部川や扇状地の水によって育まれる全てをフィールドミュージアムの大切な地域資源と捉えます。 水資源や歴史、身近にある自然から暮らしの文化まで、人々の誇りや愛着を醸成する町全体がミュー ジアムのコンテンツとなります。

② 住民が主体となり、まちづくりを進めるための活動が生まれる

地域住民が主体的に地域資源を保全や活用していくための仕組みづくりであり、地域住民の主体的な関与を積極的に支援し、水のまちに関わる様々な活動を生み出していきます。

③ 人が人をよび「水」がつなぐあらたな交流と活動の環がひろがる

身近にある地域資源の再認識や保全、活用などへの関わりを、地域への誇りや愛着の醸成へとつなげます。町の至るところで様々なアクションが生まれ、その活動が呼び水となり来訪者が訪れ、またあらたな交流や活動の循環へとつながる、持続可能な運営を実現します。



図 基本理念 概念図

4 活動の基本方針

「水が巡って人が集う 水のまちのまるごとミュージアム」での活動は、入善町の水の恵みの魅力や価値を知り、貴重な資源として再評価、検証しながら、水の恵みを生かした新しい物語づくりを進め、水と人が巡るまちづくりにつなげていく取り組みです。

この取り組みが、町外の方々から認識され、来訪者が増えることで、さらに町民の誇りとなる循環の輪を広げていくことをめざします。

"恵み"を知る=気づき

再度、丁寧に水を回り、水を知り、水の恵みに対する気づきを促します。

"恵み"を生かす=資源を磨く

水の恵みを再発見し、魅力や価値を共有することで、より魅力的な資源となるよう取り組みます。

"恵み"を巡る=物語づくり

水の恵みをより楽しむために、水のまちの地図を描き、水のまちの物語づくりを進めます。

"恵み"を巡らす=まちづくり

まちじゅうにちりばめられた"水の恵み"は、地域で暮らす住民の誇りとなり、外部の人々の目に触れ、水のまちへ訪れていただくことで、まちの活性化につなげます。

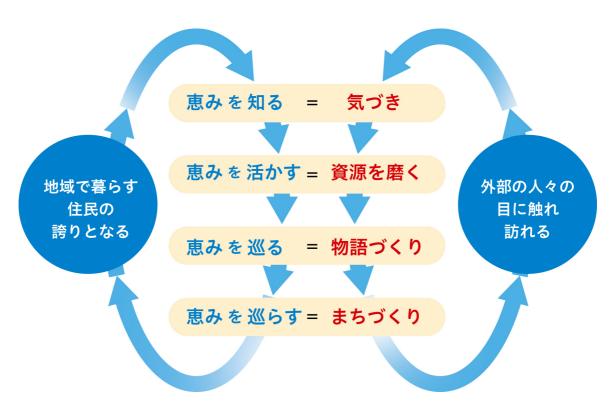


図 ソフト展開イメージ





第3章 中核拠点施設についての検討

1 中核拠点施設のコンセプト

フィールドミュージアムの玄関口として、入善の魅力やサテライトに関する情報を発信、水のまちのインフォメーションセンター"みずメグリウム" (仮称)

【施設テーマ】

『町民』にとっては、

水とともにあるわがまちの魅力や価値を再認識するきっかけとなる施設

『町外からの来訪者 (観光客)』にとっては、

入善にきたら必ず寄りたくなる、観光やフィールド周遊の起点となる施設

として、利用する方々にとって新しい魅力や価値との出会いヘナビゲートします。

① 水のまちづくり=フィールドミュージアムを推進していく場をつくる

中核拠点施設はフィールドミュージアムの運営推進の中枢です。

町民ガイドの育成やガイドブックの作成、まちめぐりルートの開発や広報活動など、町民参加を促しながらフィールドミュージアムの魅力を高める活動推進の場として計画します。

② フィールド周遊・観光の起点となる場をつくる

サテライトに関する情報を提供し、周遊の推進力を高めるフィールドミュージアムのインフォメーションセンターとして計画します。入善町全体の観光情報の集約と発信を行います。

③ ふるさと学習の拠点としての場をつくる

町の子どもが、必ず一度は訪れ、入善町の自然や歴史や文化など、水がもたらす郷土の全体像を総合的に学べる場として利用できるよう計画します。次の世代を担う入善の子どもたちが、身近な存在である水と自身との関わりを知るきっかけを与える機会を創出します。

④ 水資源にまつわる知の資産(情報)の蓄積と発信の場をつくる

水資源の調査研究成果や、フィールドミュージアム活動を通して得られた情報の蓄積、入善町に内包される生活文化や歴史に関わる情報など、水資源にまつわるあらゆる知の資産の受発信の場として計画します。ミュージアムが保有する資料や情報を町民が自由に活用したり、学べ、将来にわたって入善の水文化の継承や普及啓発を支援する基盤を構築します。

⑤ さまざまな交流を促し、町民の活動や取り組みを支援する場をつくる

フィールドミュージアム活動への町民の参画と専門機関や地域の活動組織と連携した活動を行い、その活動成果を展示で発表するなど、町民が気軽に立ち寄りさまざまな人と交流できる場を提供します。地域のおとなやこどもたち、町民と観光客など、あらゆる世代や属性の人々をつなぎ、さまざまな交流が生まれる場として計画します。



図 3つのめぐりを生み出す 水のまちのインフォメーションセンター

2 リピーターづくりのための来館者層の設定

中核拠点施設への来館者は、多くの町民、学校の校外学習で訪れる児童、観光客など、幅広い層が想定されます。たとえば、町民であっても町のことをよく知らない人や、観光を目的に来館した人には、わかりやすくフィールドにある魅力や水のまちの全体像を伝えることが必要となります。また、来館者の嗜好は様々ですが、扇状地の知識などを求める層へは、専門家向けのプログラムやイベントの企画を用意したり、交流や学びを求める層には魅力的な体験講座を日常的に開催し、参加いただくことで、施設との関わりがさらに深まります。

どの段階でも楽しめ、いつ、何度訪れても新しい発見や学びがある施設づくりをめざすことで、 リピーター(ファン)をつくり、さらにはフィールドミュージアムの活動を支える層を拡大して いくことへつなげていきます。

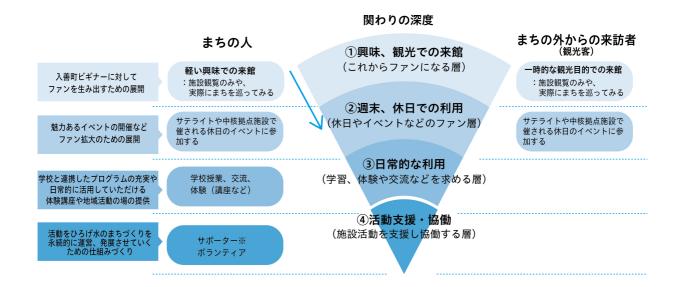


図 それぞれの関わり方が段階的に深化する事業展開

3 施設構成

(1)施設の機能

前項に掲げた施設テーマを受け、中核拠点施設の軸となる機能を以下の4つの機能としてまとめます。フィールドミュージアムの中心的な施設である中核拠点施設は、水のまちの成り立ちや水に関するさまざまな情報を発信する役割、各サテライトへの周遊を促す情報を提供する役割、町内の人々にとっての活動拠点としての役割、フィールドミュージアムの全体活動を内外へ情報発信することを主な役割として担います。

① 『ナビゲート機能』

水のまちとなった背景(成り立ち)を、大人や子どもにもわかりやすく伝える、入善のストーリーナビゲーターとしての役割を担います。バーチャル・リアリティなどの最新の映像手法を用い紹介することで、入善町のことをよく知らない来館者に対しても理解を促進し、フィールドへ出て行く期待感を醸成します。

② 『交流・周遊ガイダンス機能』

周遊のためのアクセス情報や観光情報、水に関するさまざまな情報など、現地の生き生きとした魅力を紹介することで興味を促し、来訪者をフィールドへと送り出す機能です。ふるさとへの親しみや、あらたな興味や発見が広がる中で、大人からこども、まちの人や町外からの来訪者に至る、さまざまな交流を促します。

③ 『学習·活動機能』

水資源の貴重性の認識を深め、水の環境保全への意識の醸成や、暮らしの中にある水文化を育むふる さと学習の拠点としての機能です。あらゆる世代が集い、水との関わりを育て深め合う、多様な活動や 学びの場を提供します。

4 『発信機能』

河川や湧水など、水に関わる調査研究の取り組みや成果を広く共有・発信します。水資源の価値への理解を促進し、フィールドミュージアムの活動を内外へと情報発信していく機能を担います。また、扇状地と水の領域にとどまらない、水の多様な価値の発信を通し、水のまちとしての存在感を高めていきます。



図 機能構成

(2)必要諸室の検討

中核拠点施設に必要な4つの機能をふまえ、施設を3つのゾーンに整理、必要な諸室と想定される規模を設定します。

機	能	ゾーン	諸室	施設内容	備考
発信機能	ナビゲート機能	ナビゲートゾーン 水のまちのなりたちや背景を紹介し、水のまちのなりたちやすり一へ と誘うソーン	ナビゲートシアター	ガイダンス映像シアター	・映像映写 40 席程度
				エントランスホール	・施設イメージにふさわしい明るく開放的なエントランス 空間とする。 ・施設の総合案内機能を有する。
	交流・周遊ガン	交流・ 周遊ガイダンス ゾーン	展示室	情報展示スペース ・水の恵みに関する情報展示 ・周遊ガイダンス展示 ・総合案内窓口カウンター ・交流・休憩スペース	・展示室全体は来館者の憩いと交流を促す開放的で 一体的な空間とする。
	イダンス機能	まちめぐりのアクセスルートから、現地のいきいきとした魅力を紹介することで、フィールドへの興味をつくりだし、水のまちへと送り出すゾーン		物販・飲食スペース ・ドリンクを中心としたテイクアウト商品の販売を行うカフェスペー。 お土産などを販売する物販コーナーを併設。	・来館者がゆったりと飲み物を摂りながらくつろげる空間とする。 ・簡易な調理作業が可能な厨房を併設する。 ・座席数は最低16 席程度を設ける。 ・飲食スペースは屋外空間との連携や屋外ゾーンへのアプローチを考慮した計画とする。 ・物販スペースは総合案内カウンターと隣接する。
	学習・活動機能	学習・活動ゾーン 水の価値を深め、発展させる さまざまな活動を生み出す ゾーン	多目的スペース	・見学のオリエンテーション利 用や講座、ワークショップの 開催、学習利用、企画展示な ど多様な用途に対応する多目 的スペース。	・可動間仕切りにより区切り、小グループから 団体まで 用途に応じて様々な活用ができるような設えとする。 ・読書棚を設ける。 ・音響設備、プロジェクター等を設ける。 ・作業台、流し等を設ける。 ・展示室とは可動間仕切りなどで区画することで開放性 を担保し、用途に応じて展示室と一体的な活用ができ るような計画とする。
管理ゾーン		ゾーン	事務室 資料室・作業室 ボランティア控え室 倉庫 など	・施設の運営・管理を行う。	4 名程度の執務空間。 展示物の準備更新作業や運営関係者の会議利用など。 荷物を置ける程度。 展示の機材や備品等の収納や保管。
共用ゾーン		ゾーン	トイレ ロッカールーム		・団体対応可能なトイレの数と、来館者の利便性や 快適性に配慮する。

屋外展示ゾーン	・水とふれあい、散策を楽しむことができる屋外ゾーンとして、水が湧き出る様子を見せたり、 「水とアート」「水と技」などテーマ性のある屋外展示を検討する。 ・屋外でのイベントにも利用できる広場空間を設ける。
---------	---

表 施設構成

【必要諸室の配置構成】

開放的な交流・周遊ガイダンスゾーンを中心に、ナビゲートゾーン、学習・活動ゾーンの各ゾーンを空間的に連続性を持たせて配置します。

映像シアターや管理諸室などの運営上空間を区画する必要がある諸室以外は、可動式の間仕切り パネルや什器により、ゆるやかに区画し、様々な活動に柔軟に対応できるゾーニングを計画します。

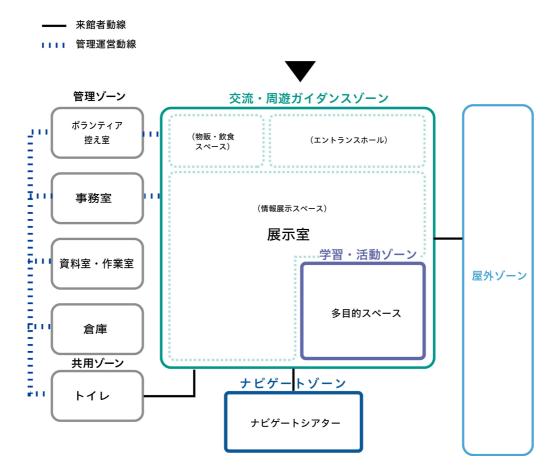


図 必要諸室の配置構成図

(3) 施設規模の検討

【建物面積】

■ 最大時利用者数の想定

・入善町立小学校のクラスサイズ : 一クラス当りの最大生徒数 40 人 (飯野小学校の場合)

・入善町立小学校の学級数 : 平均 2学級/学年

・施設内利用時のグループ単位 : 35~40人(学校利用時の1学級人数)

・最大時利用人数 : 35~40 人 × 2 学級 = 70~80 人

■ 施設規模の想定

・シアター面積 = 適正同時利用者数 × 単位面積

 $= 35 \sim 40$ 人 × 2.0 m²

= 約 80 m²

・展示室面積 = 適正同時利用者数 × 単位面積

= $70\sim80$ 人 × $4.0\sim5.0$ m²

= 約 300~400 m²

・多目的スペース面積 = 適正同時利用者数 × 単位面積 × 2室

 $= 35\sim40$ 人 × 1.5 \sim 2.0 m × 2 室

= 約 160 m²

・管理・共用スペース面積= 延床面積の 1/3 程度

= 約 300~360 m²

合計 約 840~1,000 ㎡

ゾーン	諸室	面 積
ナビゲートゾーン	ナビゲートシアター	約 80 ㎡
交流・周遊ガイダンスゾーン	展示室	約 300 ~ 400 ㎡
学習・活動ゾーン	多目的スペース	約 160 ㎡
管理ゾーン	事務室 資料室・作業室 ボランティア控室 倉庫 など	約 300 ~ 360 ㎡
共用ゾーン	トイレ ロッカールーム	
슴 計		約 840 ~ 1,000 ㎡

4 展示構成

(1)展示テーマと展示の切り口

入善町では水の循環によって、長い時間をかけてつくりあげられた扇状地を舞台に、人々が水の 恵みをうまく活用し、時には闘い、治める中で、水との関わり方、活用の仕方を模索してきました。 豊かな水の恵みは豊かな産業を生み出し、暮らしや地域社会に深く結びついた地域独特の文化を形 成してきました。

展示計画においては、学術的な視点から捉える水のまちの成り立ちや、歴史や生活文化、世界の 水の視点からみる水との関わりなど、「水と入善」をさまざまな角度から紐解き、水とともに生き てきた入善町の全体像を浮かびあがらせます。訪れた町の人が、水と人(まち)の関わりを再認識 でき、あらためて身近な水資源の価値に気づいたり、より郷土への深い関心を生み出すきっかけを つくります。

そうした小さな意識の変革を水の恵みを次の世代へとつなげる足がかりとし、また新たなめぐり へと向かわせることを展示のテーマとして掲げます。

【展示テーマ】

水とともに生きる入善の姿を可視化し、

水と扇状地 水との闘し 箏む水 水の穣り 舌かす水 水と未来 文化 水と文化 水の価値(恵み)を 次の世代へつなぐ

水の価値を新たにめぐらせる

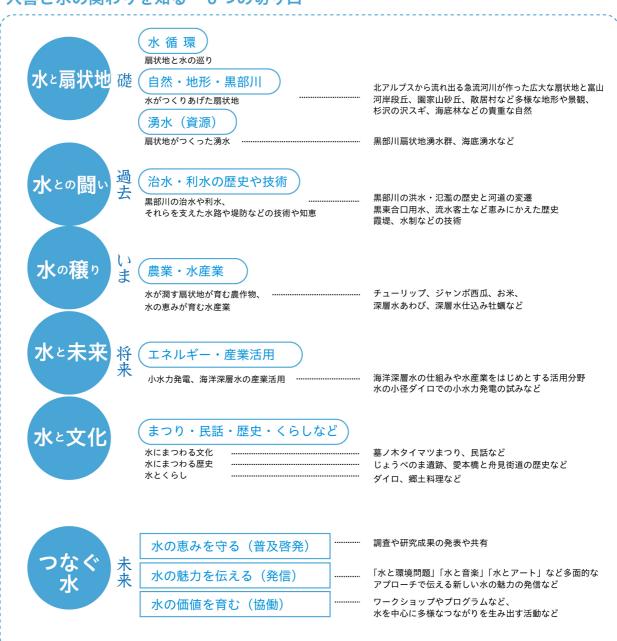
水とともに生きてきた入善の姿を可視化、 人々に気づきを与え、水の価値を新たなめぐりへと向かわせる

図 展示のテーマ

【展示の切り口】

入善と水の関わりを次の6つの切り口から紐解きます。

入善と水の関わりを知る 6つの切り口



展示の切り口(水と入善を紐解く6つの切り口)

(2)展示展開方針

① 情報がよどみなくめぐる展示 更新性・可変性の高い展示空間

施設のスタッフでも簡単に展示の更新や入れ替えが可能な展示計画とすることで、来館者に現地 で起きている情報をタイムリーに届け、常に新しい情報を発信する展示を実現します。

② さまざまな展示手法で水とともに生きる入善の姿を視える化

扇状地や水の美しさなどフィールドの臨場感が直感的に伝わる映像手法、子どもが楽しく体験的に学べるハンズオンやインタラクティブ展示、地形を実感できる立体模型や、まちのストーリーを印象づけるグラフィック手法など、水とともに生きた入善の姿を最適な展示アプローチで具現化します。

③ まちに眠る水の知を集約、アーカイブズの構築と利活用

まちに眠る水に関わる資料を収集し記録・保存するデジタルアーカイブ化を図ります。 水にまつわる情報や知識もまちの貴重な資産として、誰もがその知識や情報を利活用できる仕組みを構築します。

④ 町民のアクションを生み出す活動と連携した展示

展示への町民が関わる仕掛けを用意し、フィールドミュージアムへの参加性が高まる展示をつくります。

(3)地域の水に関わる歴史文化情報のデジタルアーカイブ化

本事業を推進していく中で、町内に眠る貴重な資料情報をデジタルデータとして収集・記録・保存するとともに、『水のまちのデジタル収蔵庫』として誰でもが比較的簡単に検索・閲覧できる環境を整えます。

また、フィールドミュージアムとしての活動を展開していく中で、収集・製作されるさまざまな 資料情報も継続的にアーカイブ化し、さまざまな活用を通じ町民と価値を共有することで、まちへ の誇りや愛着づくりを促進します。

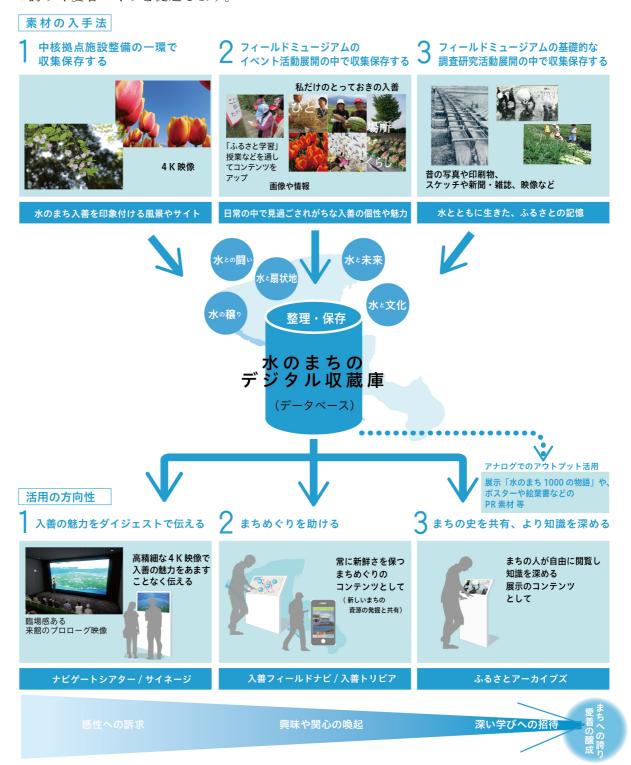


図 水のまちのデジタル収蔵庫 運用イメージ

(4)展示構成

3つのゾーンは、次の内容で展示を構成します。

ナビゲートゾーン

水のまちの成り立ちを「知る」

水のまちの成り立ちを紹介し、水のまちのストーリーへと誘うゾーン。

● ナビゲートシアター「水のまち入善」

最新の映像手法を用い、映像を通して水のまちの成り立ちをわかりやすく伝えます。入善町のことをよく知らない来館者に対して理解を促進するプロローグ展示です。

ストーリー性のあるシナリオで、まちの人の心の中にある「沢の記憶」や目に見えない海底林などを可視化します。

水のまちの「なりたち」、「自然」、「いま・未来」という3つのテーマから掘り下げ、ふるさと学習の教材としての活用から、入善町のPRまで担う映像コンテンツを展開します。

水のまちの背景

水のまちの自然

水のまちの いま・未来

①入善をひもとく

~扇状地のおいたち~

②入善をみつめる

~水とふるさとの自然~

③入善を活かす ~水とみのり・産業~

扇状地の形成を 可視化する 沢の記憶を 可視化する まちに点在する 水の産物を可視化する

学術的な要素

郷土の自然の尊さ

水が潤すまちの姿

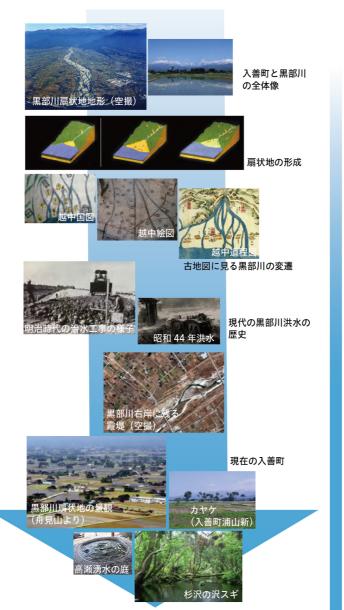


フィールドでの実感とつながる、高精細な 4K 映像とダイナミックなCG 映像で美しい入善の姿をあらわします。(40 名収容)

扇状地の形成を 可視化する

① 入善をひもとく ~扇状地のおいたち~

繰り返された黒部川の氾濫と地形の変化に焦点を当て、現在の扇状地の形成を水のめぐりの視点とと もに追います。



プロローグ 扇状地形と入善町概要

黒部川扇状地ができるまで

黒部川の河道変遷の歴史

4 黒部川の洪水との戦い

黒部川の治水

6 エンディング 扇状地が育んだ散村風景と 表流水

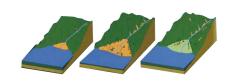
絵図からよみとく黒部川の河道の変化







- ■正保4年の越中国四郡絵図
- ■天明5年の黒部川筋絵図
- ■明治18年の富山県管内全図
- 3筋に分かれる黒部川
- ■天明5年の黒部川筋絵図 幾筋にも分かれる黒部川(黒部四十八カ瀬) ■文久3年の新川郡開眼分間絵図 2筋の黒部川



扇状地の成立はインタラクティブなVR で動的で視覚的にも分りやすく、歴史は 再現も含めて構成します。

撮影は4K以上で行います。その4K映 像から切り出した画像は、最大 A4 サイ ズのパフレットやチラシなどへ展開し ます。

②入善をみつめる ~水とふるさとの自然~

杉沢の沢スギを中心とした、かつての沢の風景を可視化し、次世代へ受け継がなければならない美しい自然の姿や彩り豊かな里の風景をつづります。

「沢の記憶」や 目に見えない海底林などを 可視化する







美しい杉沢の映像でまちの人の心の 中にある沢の姿を可視化します。

③入善を活かす ~水とみのり・産業~

黒部川の水が扇状地を潤し育んだ豊かな農業 (水田地帯)、日本海の水深 384 メートルの深さからく み上げる低温できわめて清浄な海洋深層水など、名水を生かした各種産業を紹介します。

> まちに点在する 水の産物を可視化する



Ⅰ 水と人とのかかわり 水への感謝と地域を潤す水

2 水路を利用した土地改良で 豊かな大地を切り拓いた過去 農業用水を利用した小水力

発電

産地

3 水が育む特産品、 日本一のジャンボスイカの

4 水の力がつくる 可能性あふれる入善の未来

交流・周遊ガイダンスゾーン フィールドへ「出かけたくなる」

来館者の交流を促す施設の中心的なゾーン。

周遊のためのアクセス情報や現地のいきいきとした魅力の発信、入善と水の関 わりを紹介し、フィールドへの興味をつくりだします。

● 入善ジオテーブル

入善のダイナミックな扇状地の地形をかたどる展示台を舞台にフィールドの魅力を一覧できる メイン展示です。各地域の人がサテライトのいまの見どころを定期的に発信する「まちのみんなで つくる展示 | や、子どもが遊びながら入善と水の関わりを学べる 「めぐみインデックス」など、様々 なトピックから構成されます。

① ジオマップ

入善町の扇状地の地形をかたどる大型立体マップです。

② まちのみんなでつくるジオテーブル

フィールドの活動がそのまま展示になる活動型展示。サポーターが定期的に更新し、常に旬の情 報をアップデート。来訪者にとっては、その時一番のみどころや新しい情報が入手でき、何度訪れ ても新鮮な展示を実現します。

③ 水のめぐみインデックス (児童向け 学習展示)

入善の歴史や自然などを遊びながら体験的に学べる展示です。



扇状地の特徴を 可視化する



扇状地のダイナミ ックな地形を体感

水の循環を

可視化する

まちの人の活動を 可視化する



例:現地に行くと見られる イベントや今の見どこ ろを地図にマッピング

例: 小学校が参加して地域 で見られる生き物など

「みんなでつくるジオテーブル」 まちの人の参加でつくる成長する展示。まちの人 の手で簡単に入れ替えたり、更新ができる。まち の活動がそのまま展示になる。



例:「海底林の発見」 テーブル断面をのぞくこと で、海底林の姿を見ることが できる

「水のめぐみインデックス」

例:「めぐりはどこから?」 テーブル断面を引き出すと黒 部川と扇状地の水のめぐりの しくみがわかる

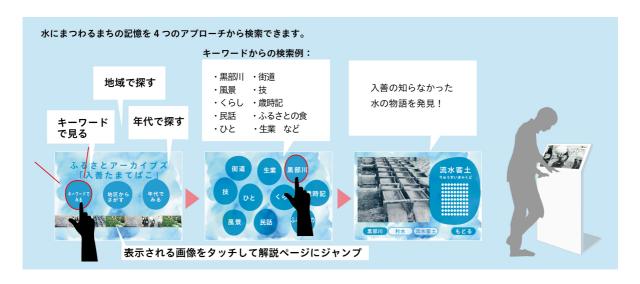
引き出したり、めくったり、体験的にまなぶ学習展示。遊びな がら水にまつわるさまざまな情報に出会う。

● 水のまち 1000 の物語

水のまちが育んできた暮らしの文化価値を引き出し町の人と共有します。

① ふるさとアーカイブズ (情報端末)

町の人がもっている入善にまつわる資料(写真や印刷物、スケッチや新聞・雑誌など)を収集しデータベースとしてアーカイブ化する展示です。来館者が自由に閲覧でき、過去から現在まで入善に詰まった水の知を探索します。

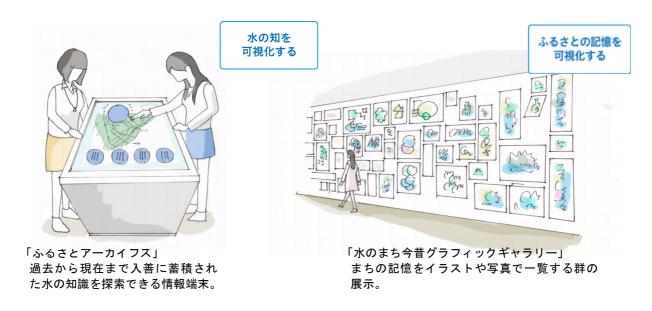


② 水のまち 今昔グラフィックギャラリー

かつて使われていたダイロや、湧水の生活への利用など、水とともにある入善の生活文化をテーマに したグラフィック展示。更新性をもたせ、季節やテーマに応じた変化のある展示を行います。



昔の農作業の風景や、流水客土による土地改良の歴史など、入善のくらしがテーマ



● まちの歩きかた

サテライトのアクセスやルート検索などまちめぐりに即効性のある情報を提供します。 町外からの観光客や町をよく知るリピーター、こどもや高齢者など多様な来館者ニーズに応える、 きめ細かな情報を提供し周遊を促します。

フィールドナビ

来館者の好みに応じてサテライトをつなぎ、オリジナルのルート作成ができる検索端末。作成したルートマップは出力したり、スマートフォンにダウンロードすることができます。

好み応じてオリジナルルートを作成。

" MY まちめぐりマップ"を片手にまちへでよう。
気になるキーワードを複数タップするとおすすめルートが自動作成されます。
マップはプリントアウトすることができます。

② まちめぐり情報ウォール/パンフレット展示

エリアの概要やサテライト、施設情報など、ひとめでフィールドミュージアムを概観できる大型マップ。マップ上ではまちめぐりの基本ルートを提示し、はじめての来館者にもわかりやすく案内します。

③ 情報交流ボード

来館者がフィールドで見たことや感じたこと、おすすめのスポットなどを自由に書き込み展示する情報掲示板。来館者の声をつなぎ、現地で役にたつ生の情報を共有します。



● インフォメーション (総合案内カウンター)

スタッフを配置し、イベントの案内や多目的スペースの予約受付、オリジナル周遊プランの相談などきめ細やかな情報提供を行います。

● 休憩スペース

来館者が観覧の間に自由に寛げる休憩スペースを設置します。入善の特産品や地形をモチーフに したデザインで入善らしさを PR します。

● 物販・飲食コーナー

フィールドでの楽しみや体験を提案するミュージアムショップ&カフェ。 入善の水の美味しさを実感できる水出しコーヒーや、飲み比べするためのオリジナルボトルの販売など、フィールドへ出て行く楽しみを提案します。

まちの人との協働で地場の農産品を活かしたメニュー開発や、フィールドのイベントと連携した 特産品開発など、地域を巻き込む取り組みにつなげていきます。











特産品をつかった入善らしさあふれるメニュー開発

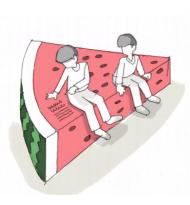
フィールドでの体験価値を 高めるグッズ



「ミュージアムショップ&カフェ」 水の町の美味しいものに出会う飲食コーナー



水の町のお土産を購入できる 物販コーナーを併設



「休きあるか会う。

「休憩スペース」 特産品や地形をモチーフにした入善らしさ あふれるベンチでは、さまざまな情報に出

学習・活動ゾーン

水を深めるさまざまな活動に「集う」

水との関わりを深め、発展させるさまざまな活動や学びを生み出すゾーン。水のまちづくりに関する企画展示など、常に新鮮な話題を提供します。

① ライブラリーコーナー

地域にかかわる図書から、水にまつわる図書などを集めた図書スペース。地域学習を推進する学習室としても活用します。

② ワーキングスペース

ワークショップや、見学オリエンテーション、研修、講座など、 さまざまな利用用途を想定し、自由なレイアウトに配慮した多目的スペース。

③ 企画展示

活動紹介展示

さまざまな専門機関との連携による調査研究に基づいたテーマ展示や、 こどもたちによるフィールドワークショップの活動報告(発表展示)、成 果発表など最新の取り組みを発信します。

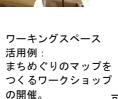


水のまち発信展示

他分野とのコラボレーションにより水の新たな魅力や価値を見出すための展示を企画します。全国の水のまちや県外の作家など、多様なつながりを企画し、水のまちだからこそできる新しい水の魅力やメッセージを内外に継続的に発信します。

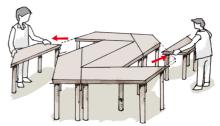






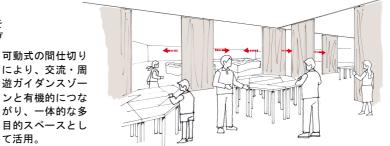


パネルから実物資料まで展示できる、可変性の ある展示什器を用意し、 企画展示に対応。



レイアウトの可変性に対応する什 器備品。さまざまな利用用途を想 定し、自由なレイアウトに配慮。







第3章 中核拠点施設についての検討

ゾーン	諸室	大項目	中項目	概要	1	主な利用を	*イメージ 3	4		
		水のまち 入善(映像展示)	①入善をひもとく~扇状地のおいたち~		興味、	週末、	日常的	活動		
ナビゲートゾーン	ナビゲートシアター	映像の力を通して水のまちの成り立ちをわ かりやすく伝えるナビゲートシアター。入	®の力を通して水のまちの成り立ちをわ りやすく伝えるナビゲートシアター。入 ② 入善をみつめる〜水とふるさとの自然〜 ド沢の沢スギをはじめとする自然の美しく貴重な姿、 1		観光で	休日で	的な利田	接		
水のまちの成り立ちを紹介し、 水のまちのストーリーへと誘うゾーン		善町のことを知らない来館者に対して理解 を促進するプロローグ展示。	③入善を活かす~水とみのり・産業~	黒部川の水が扇状地を潤し育んだ豊かな農業、海洋深層水などの新たな 資源など名水をいかした各種産業を紹介。	の来館	休日での利用	713	働		
		入善ジオテーブル	①入善ジオマップ	扇頂から入善町全域を示す立体地形マップ。						
		フィールドの魅力を一覧させ、 まちめぐりに出かけたくなる仕掛けを つくる。	②まちのみんなでつくるジオテーブル	フィールドの「旬の情報」をまちの人たちが発信。水にまつわる地域活動が そのまま展示になる活動型展示。						
			③水のめぐみインデックス(児童向学習展示)	 こどもたちが遊びながら入善と水のことについて学べる体験展示。 						
		水のまち 1000 の物語 水のまちが育んできた暮らしの	①ふるさとアーカイブズ	町の人がもっている入善にまつわる資料(写真や印刷物、スケッチや新聞・雑誌など) を収集しデータベースとしてアーカイブ化、自由に閲覧できる端末。						
		文化価値を引き出し町の人と共有する。	②水のまちグラフィックギャラリー	入善町の文化やくらしにフォーカスした更新性のある展示。						
交流・ 周遊ガイダンスゾーン	展示室	まちのあるきかた	「ハノイールトノに(まり切りり目戦快系師本)」。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	点在する数々のサテライトを来訪者の好みに応じて編集し、オリジナル のまちめぐりルートを提示する。						
周遊のためのアクセス情報や 現地のいきいきとした魅力を紹 介することで、フィールドへの	집)	フィールドへのアクセス情報など まちめぐりに即効性のある情報を 提供する。 インフォメーション (総合案内カウンター)	②まちめぐり情報ウォール	まちめぐりルートの大型マップ、パンフ・チラシなどの設置。						
乗味をつくりだし、フィールドへの 乗味をつくりだし、フィールド へと送り出すゾーン			③まちめぐり交流ボード	来訪者同士のまちめぐりの情報交換を促す展示。						
			各種案内など人的対応による周遊案内	(ガイドツアー、イベント申し込み受付など)						
	・水に関わる情報展示 ・周遊ガイダンス展示 ・総合案内窓口	休憩スペース		特産物やハバなど、入善らしさをモチーフにしたベンチなどを設置						
	・交流・休憩スペース	物販・飲食スペース フィールド体験の価値が高まるコンテンツを 備えたミュージアムショップ&カフェ。	①ミュージアムショップ ②カフェ(テイクアウト)	まちの人との協働で地場の農産品を活かしたメニュー開発や、 フィールドのイベントと連携した特産品開発など、地域を巻き込む 取り組みにつなげる。						
<u> </u>				多目的スペース	①ライブラリーコーナー	地域にかかわる図書から水にまつわるあらゆる図書などを集めた 図書棚を設置。地域学習の学習室としても活用を促す。				
学習・活動ゾーン 水の価値を深め、発展させるさま ざまな活動や学びをを生み出す ゾーン	多目的スペース	水のまちづくりの拠点として 交流や活動を生み出す場や機会を 提供する。 また、水のまちづくりに関する 企画展示など、常に新鮮な話題を	②ワーキングスペース 	ワークショップや、見学オリエンテーション、研修、講座など、 さまざまな利用用途を想定し、自由なレイアウトに配慮した ワーキングスペース。						
		提供する。	③企画展示	活動紹介展示 専門機関の調査研究の成果や、地域ワークショップの活動発表展示。 水のまち発信展示 例えば、水×アート、水×環境問題、水×文学など。 多様な連携により水をさまざまな視座でとらえた 展示を企画し水の新しい魅力やメッセージを内外に継続的に発信。						

表 展示構成表



5 候補地の検討

(1)基本的な考え方

中核拠点施設については、新設を前提に、機能を1ケ所に集約する方法(A案)と、既存施設を 有効活用するため分散する方法(B案)が考えられます。

タイプ人 新設を前提とした <中核拠点施設(コア施設)配置型> 概念図 サテライト サテライト 住民 サテライト

コア施設に求められる機能を集約する

サテライト

- ○住民の活動拠点が集約されることによる情報発信力の強 化など、統一的な運営が促進。
- ○計画の自由度が高く、必要機能の効果的な運用をふまえ た計画が可能。
- ○町外からの来訪者にとっては来訪の目印となり周遊の 受入拠点(エントランスゲート)としての機能を果たし やすい。
- ×既存施設活用と比較すると、事業費負担は大きくなる。



- ○既存施設を活用するため、事業費負担が少ない。
- × 既存施設の規模に制約があり、1 カ所ではコア施設に求めら れる機能をカバーしきれないため、他の施設に委ねること も考えられる。



図 フィールドミュージアムにおける中核拠点施設の構成タイプ

(2) 中核拠点施設とエリア拠点施設の整備形態

中核拠点施設の候補地としては、新設による2立地、エリア拠点施設は既存施設の4施設が候補としてあげられます。そのうちから成る3つの整備形態を評価します。



図 中核拠点施設候補地とエリア拠点施設候補地

整備形態	917 A-1	タイプ A -2	タイプ A -3	タイプ B-1	タイプ B-2
中核拠点施設 の整備方針	湧水資源が集中する扇端に配置する 水のまちの新たなシンボル創造型	町の交流拠点施設に併設し 中心地の交流機能の強化発展型	スマート IC に近接する 町のエントランスゲート創造型	既存施設の有効活用による 中核拠点施設の機能分散型	既存施設との連携強化型
	新設	新設	新設	既存施設活用	新設 + 既存施設活用
候補地	海洋深層水活用施設近接地	うるおい館隣地	スマート IC 近接地	芦崎保育所	海洋深層水活用施設隣接地
中核拠点施設とエリア拠点施設の形態	うるおい館 海洋深層が 活用施設 近接地 沢スギ自然館 舟見城址館	海洋深層水活用施設 一	ラるおい館 スマート IC 近接地 沢スギ自然館 /海洋深層活用施設 伊見城址館	芦崎保育所 (選件既存施設) 海洋深層水 活用施設 /サンウェル 沢スギ自然館 舟見城址館	海洋深層水活用施設 (開接地) うるおい館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

表 中核拠点施設候補地と4つの整備形態の検討

タイプ **A-1**

海洋深層水活用施設近接地に新設

湧水資源が集中する扇端エリア。

湧水の演出など、水を活かした展示や、ランドスケープを施設計画に取り入れ、 水のまちのシンボルとなる特徴ある施設づくり。



●整備イメージ



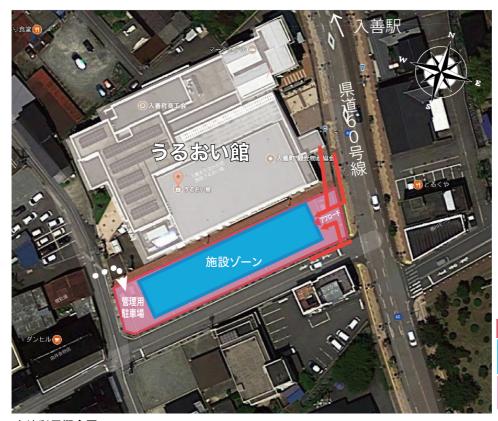
水を中心に人の交流が生まれる、水のある ランドスケープデザインと屋外展示



外部空間も重要な要素と考え十分な空間確保を検討。 屋内と屋外が一体となった開放的な環境づくり

タイプA-2 うるおい館隣地に新設

まちの人が集いやすいまちなかがある扇央エリア。 町民の交流拠点となっているうるおい館に併設しながら新設する、 まちなかの交流機能の強化・発展型。



歩行者導線 自動車導線

敷地面積 約 845㎡

施設ゾーン 約 500 ㎡ (建築延床面積 1,000 ㎡)

町営駐車場を利用

※ 駐車場は周辺の

土地利用概念図 S=1/1000

●整備イメージ



ピロティを活用したイベントスペース



うるおい館との調和を考慮した外観



ユニバーサルデザインに配慮し ながら誰もがアクセスしやすい 施設エントランスへのアプロー チを考慮

タイプ **人**-3

スマート IC 近接地に新設

スマート IC 付近に立地し地域外からのアクセス性は良好、 町のエントランスゲートとしての役割も果たす拠点施設整備が可能。



土地利用概念図 S=1/1000

●整備イメージ





步行者導線 自動車導線 敷地面積 約 6,000 ㎡

施設ゾーン 約 1,000 m (建築延床面積 1,000 m)

屋外水辺ゾーン約 2,000 ㎡

駐車場ゾーン 約3,000㎡

外部空間も重要な要素と考え十分な空間確保を検討。 屋内と屋外が一体となった開放的な環境づくり

タイプ **B**-1

既存施設の活用

遊休既存施設に、コア機能の中心となるナビゲート機能、交流・周遊ガイダンス機能を配置。 不足する機能を他の既存施設で分担する中核拠点施設の機能分散型。







タイプ **B**-2 海洋深層水活用施設隣地に新設 + 既存施設の活用

海洋深層水活用施設の隣接地に新設し、コア機能の中心となるナビゲート機能、 交流・周遊ガイダンス機能を配置。

水のまちのイメージを牽引し、観光のポテンシャルの高い既存施設との連携強化型。



土地利用概念図 S=1/1000

交 流・ 周遊ガイダンス機能

ナビゲート機能

情報展示 ・情報展示

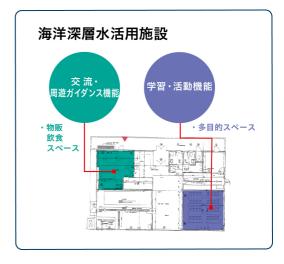
- ・周遊ガイダンス
- ・総合案内窓口
- ・交流スペース





ナビゲートシアター







(3)整備形態の評価

整備形態	タイプ A -1	タイプ A -2	917 A -3	タイプ B -1	タイプ B-2
中核拠点施設の整備方針	湧水資源が集中する扇端に配置し 水のまちの新たなシンボル創造型 新設	町の交流拠点施設に併設し 中心地の交流機能の強化発展型 新設	スマート IC に近接する 町のエントランスゲート創造型 新設	既存施設の有効活用による 中核拠点施設の機能分散型 既存施設活用	既存施設との連携強化型 新設 + 既存施設活用
候補地	海洋深層水活用施設近接地	うるおい館隣地	スマート IC 近接地	芦崎保育所	海洋深層水活用施設隣接地
中核拠点施設と エリア拠点施設の形態	ラるおい館 海洋深層水 活用施設 近接地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	海洋深層水活用施設 うるおい館 併設 か見城址館	ラるおい館 スマートIC 近接地 沢スギ自然館 /海洋深層活用施設	声崎保育所 (遊休既存施設) 海洋深層水活用施設 うるおい館 /ザンウェル 沢スギ自然館 舟見城址館	海洋深層水活用施設 海洋深層水活用施設 うるおい館 舟見城址館
①水資源との関連水資源との関わりの深さ	0	×	0	0	0
②拠点性 人の集まりや活動の有無	0	0	0	0	0
③既存施設 既存施設との調整のしやすさ	0	×	\triangle	\triangle	0
④施設規模 施設計画の自由度	\circ	\triangle	0	×	0
⑥地域内公共交通 公共交通の利便性、立ち寄りやすさ	0	0	\circ	0	\circ
⑦エントランス性 地域外からのアクセス性	\circ	\circ	0	\circ	\circ
⑧事業費事業費の大小	×	×	×	0	0
9総合評価	0	\triangle	0	0	0
メリットと デメリット	 ○ 水のまちのシンボル性、観光周遊の起点として打ち出しやすい。 ○ 湧水の演出など、水を活かした展示や、ランドスケープを施設計画に取り入れられ、水の魅力を訴求する特徴ある施設づくりができる。 ○ 町内外から年間3万人程度の集客力をもつ、観光ボテンシャルの高い「牡蠣の星」との連携や、海洋深層水活用施設との相乗効果を狙った、将来の観光ニーズを見据えた一体的な開発計画が期待できる。 ○ 駐車台数も多く確保でき、全体の施設計画の自由度は高い。 ○ 富山湾岸サイクリングコースや湧水と海辺のみちなど、既に整備されたルート上にあるため、町外に対する立地PRのポテンシャルは高い。 × 土地の地盤が弱い(20mの基礎が必要) ※ 乗り入れのための橋が必要。(1億円程度)ただし、新設される湾岸道路からの乗り入れも可能。※道路計画との整合性を取る必要性有。 ※ 事業費負担が大きくなる。 	おい館の機能強化型、発展型として、まちの交流機能の活性化が期待できる。 △ うるおい館は年間11万人が利用するが、特定の目的を持って利用する人が多い。 △ うるおい館の利用率は高い。 × うるおい館山側駐車場の利用率は高い。	ゲートとなり得る施設整備が可能。 ○ 北アルプスの山並みや扇状地の田園風景を施設計画に取り入れられ、水の魅力を訴求する特徴ある施設づくりができる。 ○ 地下水は無いが、水を見せる展示は可能。 ○ 駐車台数も多く確保でき、全体の施設計画の自由度は高い。 ○ フラワーロードなど町内イベントとの連携が図られる。 ※ フラワーロードの圃場となる場所であり、イベント運営に支障がある。 ※ 事業費負担が大きくなる。	 ○ 遊休施設や既存の資源を有効活用できる。 ○ 水のまちのシンボル性、観光周遊の起点として打ち出しやすい。 ○ 主要サテライトと近接する立地である。 ○ 地下水は無いが、水を見せる展示は可能。 ※ コア施設に想定している適正面積が確保できない。 ※ 機能が分散されるため、他案に比べてフィールドミュージアムの中核機能としての求心力が劣る。 	 ● 町内外から年間3万人程度の集客力をもつ、観光ポテンシャルの高い「牡蠣の星」との連携や、海洋深層水活用施設との相乗効果を狙った、将来の観光ニーズを見据えた一体的な開発計画が期待できる。 ● 水のまちのシンボル性、観光周遊の起点として打ち出しやすい。 ● 湧水の演出など、水を活かした展示や、北アルブスの山並みや富山湾があり、ランドスケープを施設計画に取り入れられる。 ● 事業費負担が小さい。 ● 富山湾岸サイクリングコースや湧水と海辺のみちなど、既に整備されたルート上にあるため、町外に対する立地PRのポテンシャルは高い。 ※ 海洋深層水活用施設の裏手の立地となるため、施設の存在感が希薄となる。 ※ コア施設に想定している適正面積が確保できない。

表 5つの整備形態の考察





第4章 エリア拠点施設・ サテライト整備案の検討

1 4エリアとエリア拠点施設の設定

本フィールドミュージアムを構成するエリアは、扇状地の地勢や資源分布の特性に基づき、大きな景観・環境のまとまりごとに、「台地・山間部」「扇央部」「扇端部」「扇頂部・黒部川部」の4つに設定します。

「扇頂部・黒部川部」を除く3つのエリアについては、エリアの入り口となる「エリア拠点施設」を整備し、来訪者をサテライトへと誘導するまちめぐりの情報提供を行います。このエリア拠点施設は、人が集まりやすいことや、情報を展示する場所があること、周遊の集合場所として使いやすい施設であることが求められます。このため、各エリアの中心的な施設として、次の既存施設を設定します。

エリア	整備の方向性	エリア拠点施設
台地· 山間部	山間部の豊かな緑地、ダム湖や温泉等の水資源、 高台からの扇状地風景の眺望を活かしたレクレ ーションの向上を図る。	舟見城址館
扇頂部・ 黒部川部	黒部川の広々とした河川空間や桜並木など、 スケールの大きい景観を重視した水辺環境を 整備する。	_
扇央部	チューリップやジャンボスイカの畑、工場の立 地、小水力発電、水を活かした施設整備などさ まざまな水の恵みの資源を活かし、水の町であ ることを幅広い視点からアピールする。	
扇端部	最も水資源が集積するエリアであり、入善町の水の豊かさのイメージを形成する中心的なエリアとなる。地域として良好な湧水スポットの保全・活用を進め、水を眺め、触れ、味わうことの魅力を高める。	海洋深層水活用施設

■ エリア拠点施設の整備

エリア拠点施設の整備については、新たに人を配置したり、新築したりするのではなく、既存 施設の一角を活用した展開を想定します。

来館者に対し、ミュージアムの情報発信ポイントとしてのわかりやすいコーナーアピールを行い、フィールドミュージアムの統一的なイメージを発信します。

次の展示物から構成し、エリアのまちめぐりのための情報やサービスを提供します。

【展示整備】

① エリア案内マップ(エリア案内サイン)

エリア内のサテライトを紹介するエリアの案内マップ。

② 入善フィールドナビ (まちめぐり端末)

利用者の好みや興味に応じて、サテライトスポットをつなぎ、オリジナルのまちめぐりルートを 作成できる検索端末。

③ サイネージ

フィールドミュージアムのガイダンス映像。

④ エリアジャーナル

フィールドミュージアムの各施設のパンフレットや、エリアのイベント情報などを発信する情報 掲示板。



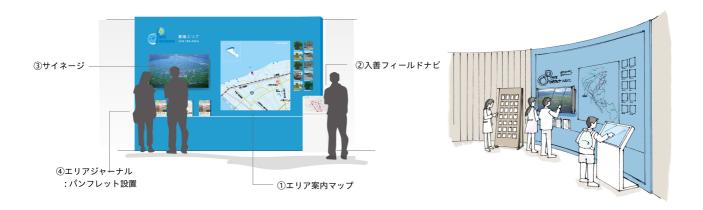


図 エリア拠点施設の展示整備イメージ(基本パターン)

2 サテライトの設定

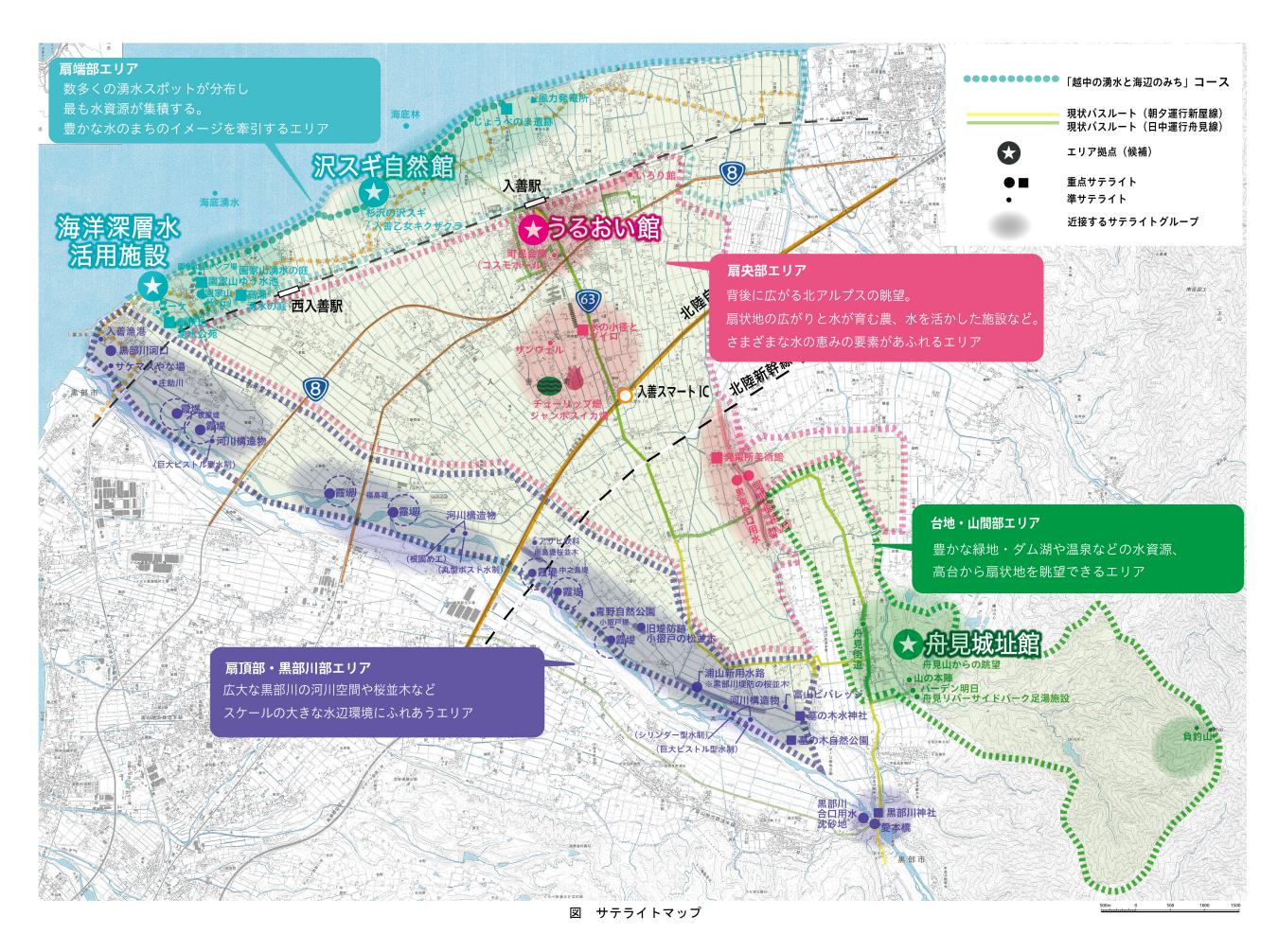
フィールドミュージアムにおけるサテライトを、入善と水との関わりを紐解く6つの切り口と、エリア分布により次の表に整理します。

水資源と特に関わりが深いサテライトを重点サテライトと位置付け、季節性の高いサテライトや、 体験やイベントなどでの利用が考えられる施設を準サテライトとして位置付けます。

- ■● :水との関連性が深い「重点サテライト」。サインの設置を検討する。
- ・ :主に体験やイベント、学習などで活用が考えられる「準サテライト」

エリア	水と扇 湧水(資源)	自然・地形・黒部川	水との闘い	水の穣り	水と未来エネルギー・産業活用	水と文化 まつり・民話 歴史・くらし
台地・山間部		■舟見山からの眺望 (舟見城址館) ・舟見リバーサイド パーク足湯施設 ・バーデン明日 ・負釣山	歴史や技術		<u></u>	歴史・くらし ・北国上街道 ・山の本陣
扇頂部・黒部川部		■墓の木自然公園●黒部川河口●浦山新用水路・青野自然公園	●愛本橋と舟見街道 ●黒部川合口 用水沈砂地 ●旧堤防跡 (カヤケ)・ 小摺戸の松並木 ●霞堤 (南島堤周辺) ●霞堤 (福島堤周辺) ●霞堤 (四十八カ瀬 大橋周辺) ・黒部川河川構造物 (根固めエなど)	・入善漁港 ・サケ ・ マスやな場	・工場 (富山ビバレッジ) ・工場 (アサヒ飲料)	■黒部川神社■墓の木水神社
扇央部		●河岸段丘 (ハバ)	●黒東合口用水 ■発電所美術館	・チューリップ畑 ・ジャンボスイカ畑	■水の小径とダイロ	・サンウェル ・コスモホール ・椚山いろり館
扇端部	■扇状地湧水公苑 ■高瀬湧水の庭 ■園家山湧水の庭 ■園家山ゆう水池	■杉沢の沢スギ / 入善乙女キク ザクラ●園家山(砂丘)			■海洋深層水 パーク	■じょうべのま遺跡
	・園家山キャンプ場 の湧水 ・海底湧水	・海底林 ・庄助川			・風力発電所・工場(ウーケ)	

表 サテライトの設定





3 ルートプランの考え方

何度でも現地 (フィールド) に足を運んでいただき、実際に入善の魅力を体感いただくことが、 本フィールドミュージアムのめぐりの原動力です。

めぐるごとに知らなかったまちの魅力に出会え、興味が深まり、「いつ、誰と、何度来ても楽しめる」まちめぐりルートやプログラムの開発を行い、「めぐりのリピーター」づくりをめざします。

【具体化の指標】

めぐり方



徒歩(ウォーキング)



レンタサイクル



コミュニティバス



乗合タクシー / デマンド交通



さまざまな選択肢を用意、 周遊を促進 対象

ビギナー

観光客/町民

リピーター

観光客/町民

ファミリー

観光客/町民

学校 / こどもたち

専門家

小

さまざまな来訪者ニーズ への対応

動機や目的

観光

まちを知りたい

レジャー・交流

ふるさと学習

知識を深めたい

小

さまざまな動機や 目的への対応

楽しみ方

- ・フリー
- ・ツアー参加 (ガイドアテンド)
- ワークショップ /イベント参加 (能動的な体験)

小

関わり方の深度が深まるさまざまな楽しみ方を用意

コンテンツ(恵み)

自然・地形・黒部川 湧水 (資源)

治水・利水の 歴史・技術

農業・水産業

エネルギー・産業

まつり・民話・ 歴史・くらしなど

Û

各コンテンツを テーマにより編集する 機会

- ・オールシーズン
- •季節限定
- ・週末休日
- ・アニューアルイベント

小

いつ何度来ても違う めぐり方(楽しみ)がある

■ グループサテライト周遊とエリア間のルート周遊

まちめぐりルートのプランの基本的な考え方としては、近接するサテライト区域をめぐりの最小単位「グループサテライト」としてとらえます。グループサテライトを徒歩や自転車で集中的にめぐる「グループサテライト周遊」と、グループサテライトをテーマでつなぎ、エリアを超えて周遊する「エリア間ルート周遊」を設定します。

近接するサテライトをめぐる **グループサテライト周遊**

概念イメージ

エリア内をめぐる

テーマをもってコンテンツを編集し、 グループサテライトをつなぐ エリア間ルート周遊





グループサテライト周遊の例

名称	内容	エリア
湧水散策ルート	入善の豊かな湧水を堪能。数々の湧水スポットをめぐりなが ら名水の飲み比べを楽しむルート。	扇端部エリア
黒部川を紐解くルート	墓の木神社にはじまり黒部川に沿って歩くルート。 霞堤や水制などを見ながら先人が築いてきた治水・利水の知恵にふれます。	扇頂部・黒部川部 エリア
水のふるさとルート	水が形成した扇状地を一望できる舟見エリアで、ふるさとの 魅力を探訪するルート。舟見城址館の展望台から眺める美し い田園風景や宿場町だった舟見街道を楽しみます。	台地・山間部エリア
アートと扇状地ルート	河岸段丘の上に建つ発電所美術館でアートにふれるルート。 特徴的な景観と扇状地を体感し、水路に沿って散策しながら、 水のまちを実感します。	扇央部エリア

エリア間ルート周遊の例

名称	内容	エリア	
水のまち1日満喫ルート	扇端に湧き出る湧水めぐりから扇頂での散居村の夕日まで。 水路に沿ってサイクリングしながら扇状地の魅力をあますこ となく満喫できるルート。	扇端部エリア 〜扇央部エリア 〜台地・山間部エリア	
水とものづくりルート	水を活かした入善の産業を知る、ふるさと学習向けのルート。 海洋深層水活用施設見学から、水の恵みを活用した食品工場 をめぐり、入善と水の関わりを学びます。	扇端部エリア 〜扇頂部・黒部川部エリア	

【ルート例】

湧水散策ルート グループサテライト周遊 名水めぐり フリー 湧水スポットめぐりで名水を飲み比べ。 入善の潮風を感じながら歩く約1時間のウォーキングルート。 1H 観光 ビギナー 一等三角点 園家山キャンプ場 園家山ゆう水池 海岸風景を楽しみながら ウォーキング 🏌 五十里湧水の庭 高瀬湧水の庭 扇状地湧水公苑 → 海洋深層水パーク 田園をのぞみながら ウォーキング 水のまち満喫ルート エリア間ルート周遊 扇端に湧き出る湧水から扇頂での散居村の夕日まで。 水と扇状地 水路に沿ってサイクリングしながら扇状地の魅力を **₹**₹ 1日 ビギナー あますことなく満喫できるルート。 高瀬湧水の庭 ------ ウォーキング 🏌 発電所美術館 水の小径 河岸段丘 (ハバ) ----- 電動レンタサイクル・--舟見リバーサイド パーク足湯施設 散居村の風景 舟見ふるさとの森 ★ 舟見城址館 電動レンタサイクル

4 サインシステムの考え方

町民や、観光客など、フィールドミュージアムに訪れるすべての人に、快適なまちめぐりを楽しんでいただくために、情報や配置が系統立てて計画されたサインスステムが求められます。

水のまち入善のイメージにふさわしい統一的なデザインで、誰にでもわかりやすいサイン計画を 整備し、来訪者を的確にサテライトからサテライトへと誘導します。

「体系的な整備による、快適なまちめぐり」

人が目的地へと到達するためには、適切な場所に適切な情報を連続して配置するサイン計画が求められます。サインに表記する情報や配置を体系化することで、機能的な周遊動線をサポートします。

来訪者や町民が安心してサテライトへと到着できるよう誘導します。

「水のまちの景観づくりに貢献し、統一的なイメージを形成」

水のまち=入善らしさを表出する、1つのまとまったイメージの形成を図ります。統一的なデザインでサテライトをつなぎ、来訪者をもてなすとともに、町民のまちへの意識向上にも貢献します。 デザインについては、フィールドミュージアム全体の基本ルールづくりを行います。周遊の目印と して視認性の高い色彩や表現の仕方などを設定し、ルールに基づいたデザインを展開します。

「ユニバーサルデザインの導入」

サインの利用者には大人やこども、高齢者や障害のある方、海外の方など、さまざまな人がいます。見やすい高さや大きさ、色彩、表現方法など、誰が見ても瞬時にわかりやすいユニバーサルのデザインの考え方を取り入れていきます。また、海外からの旅行者への多言語対応など、スマートフォンなどを活用した豊富な情報提供ができるシステムを検討します。



■ サインシステムの構成

フィールドミュージアムのサインシステムは以下のサインを基本に構成します。

① フィールドミュージアム総合案内サイン

まちめぐり、行動の起点となる中核拠点施設に設置します。フィールドミュージアム全体案内地図など総合的な情報を提供します。

② エリア案内サイン

エリアの行動起点となるエリア拠点施設に設置します。エリアの地域案内地図など、エリアの総合的な情報を提供します。

③ 誘導サイン

案内経路上の交差点や分岐点などに設置します。

④ 誘導サイン(目的地付近)

対象となる場所の 50-100m 近隣地点に設置し、目的地までの距離などの情報を提供します。

⑤ 案内解説サイン

目的地(サテライト)に設置する案内板です。情報解説を行います。

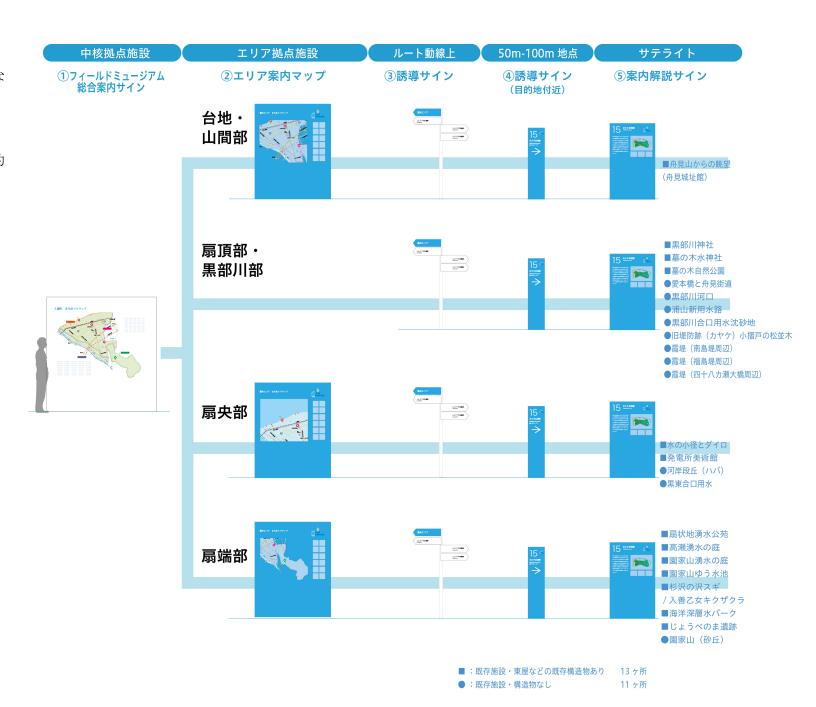


図 サインシステムイメージ



5 アクセス情報の提供とめぐる仕掛け

中核拠点施設からエリア拠点施設そしてサテライトへと誘導するアクセス情報を提供し、エリア を結ぶ周遊ルートを明確にします。

「めぐる人の多様なニーズに対応する」

入善に暮らす町民と、外から訪れる観光客では、まちめぐりの動機や求める情報も異なります。 たとえば、町民は口コミのような身近にある情報に触れることで、自分が暮らすまちへの興味が刺激され、フィールドへ出ていく機会も増えます。

一方、観光客は見どころスポットやアクセスルートなど、まちのめぐり方に関する総合的な情報 を重視します。さらに食や自然、地形や歴史など、各々の興味や嗜好もさまざまです。このような まちをめぐる人の多様なニーズに丁寧に応え、何度でもめぐりたくなる仕掛けを用意します。

「サテライトに向かう途中にも楽しみや発見が得られる」

AR(仮想現実)技術などにより、目的地へと向かう途中もエンターテイメント性の高い仕掛けを用意し、めぐることが楽しくなるような体験を提供します。

「めぐることが楽しくなる参加性のあるコンテンツ」

歩くとポイントがたまるウォーキングポイントなど、参加性のあるコンテンツを用意し、めぐる 楽しさを提案、まちめぐりのリピーターをつくります。

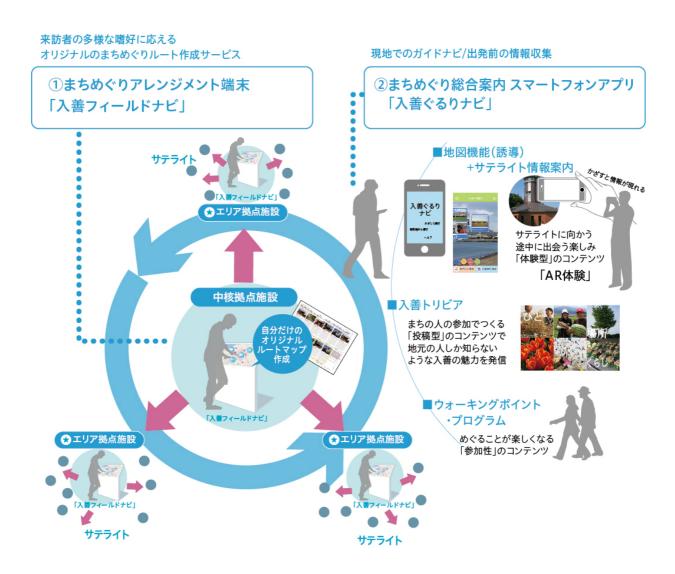


図 アクセス情報の提供とめぐる仕掛け

①まちめぐりアレンジメント端末「入善フィールドナビ」

利用者の好みや興味に応じて、サテライトスポットをつなぎ、オリジナルのまちめぐりルートを 作成できる検索端末です。

【ねらい】利用者の多様なニーズに対応するまちめぐりルートを提供し、何度来訪しても違う 楽しみ方(めぐり方)を提案します。

【対象者】中核拠点施設、エリア拠点施設の来館者









【主な機能】

- 「好きなテーマ」から検索し、スポットをカスタマイズして『MYまちめぐりルート』を作成できます。
- ②『MYまちめぐりルート』は出力やダウンロードして持ち出しすることができます。

②まちめぐり総合案内 スマートフォンアプリ「入善ぐるりナビ」

スマートフォンの地図機能と連携し、サテライトスポットを案内するスマートフォンアプリです。 現地でのガイドナビだけでなく出発前の情報収集にも活躍します。

【ねらい】まちめぐりの総合案内版として、観光客のまちめぐりをサポートします。

【対象者】町民、観光客

■ 地図機能/サテライト情報案内





参考事例:おばまお散歩ナビ(小浜市)

【主な機能】

● 目的から探す

「湧水」「黒部川」「歴史」「アート」など、カテゴリに分類されたサテライトのスポット情報を閲覧できます。

② かざして探す(AR体験) カメラを向けた方向にあるサテライト情報が 表示されます。

3 目的地までの地図案内

「経路を表示」をタップすれば地図アプリが 起動し、目的地までの道案内も行います。

■ まちの人の参加でつくる投稿型コンテンツ

地元の人しか知らない入善のトリビアを投稿してもらい、知られざるわがまちの魅力を町のみんなで発掘します。まちの人による投稿形式により、情報は随時更新、蓄積化されていくため、常に新鮮な情報を発信、共有することができ、情報活動の活性化が期待できます。



「人」や「くらし」など、日常の中で見過ごされが ちな入善の個性や魅力についても、まちの資源とし てとらえ情報発信します。

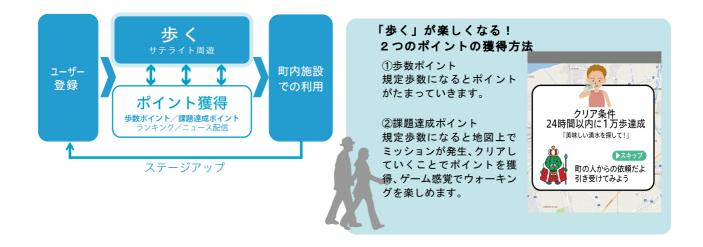


ふるさと学習授業への展開 「ふるさと学習」授業やワークショップを通して、簡単にコンテンツを作成・登録できます。 発信 登録

飲み比ベツアーやまちに 点在する「水の恵み」を 探しにフィールドへ

■ まちめぐりを促進するウォーキングポイント・プログラム

スマホを持って歩くだけで歩数に応じてポイントがもらえるプログラムを搭載します。たまったポイントは、町内施設との連携で利用が可能になる仕組みを導入し、まちめぐりルートの横展開で周遊を促進する仕掛けをつくります。



6 移動手段の確保による周遊の促進

① まちめぐりの基本となる徒歩によるサテライト周遊

各エリア内の周遊は、徒歩による散策を基本とします。テーマや所要時間に対応したおすすめコースを紹介し、利用者の興味を引き出します。



②『どこでもレンタサイクル』

各エリア拠点施設に、レンタサイクルのポートを設置し、どこでも貸出 と返却を利用できるようにする「どこでもレンタサイクル」を運用し、周 遊の自由度を広げます。



③ 町が運行・支援する公共交通

町営バスやデマンド交通など、町が運行または支援する公共交通を活用 し、中核拠点施設とエリア拠点を結ぶ整備を検討していきます。



④ 民間事業者が行う交通

タクシーのほか、観光乗合タクシーや入善観光バスなど、民間企業が行 うフィールドツアーと連携を取ることを検討していきます。





第5章 運営計画

1 運営の基本方針

フィールドミュージアムの活動は、中核拠点施設を中心に、地域に点在するエリア拠点施設の 運営スタッフと連携し、住民参加による面的な広がりのある事業展開をめざします。

①フィールドミュージアム活動を牽引する人材育成

入善町内外のさまざまな組織との連携により、住民主導によるフィールドミュージアム活動を牽引する人材育成のための体制づくりをめざします。

②エリア単位の主体的な運営を担う地域サポーターとの協働

エリア拠点施設は、地域サポーターを束ねるエリアのリーダーとして、サテライトの保全や情報 収集、散策コースやプログラムの企画、実践を行います。また、各エリアで自主的な運営が成り立 つ段階的な活動の仕組みをつくり、水のまちの魅力を発展させる好循環をつくりだすことをめざし ます。

③フィールドミュージアムとしての総合的な事業展開と連携調整

フィールドミュージアム活動の展開において、エリア拠点施設間の情報交換や課題確認、施策立案など、相互の協力・連携の場として連絡協議会を設定します。この連絡協議会は、町民や町内関係団体、庁内関係課をはじめ、町外の活動団体や有識者とも連携する柔軟かつ多様な活動展開が行える組織運営をめざします。

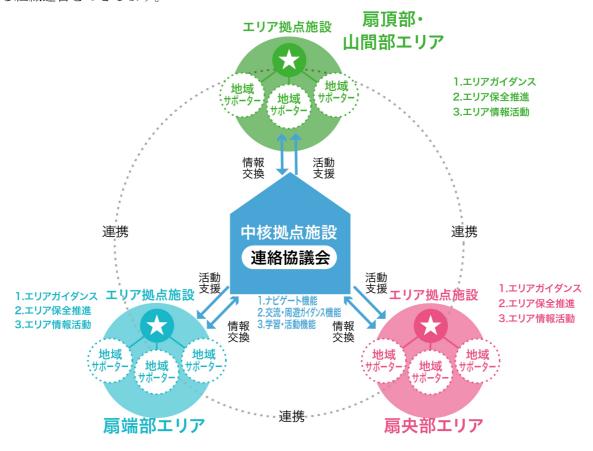


図 運営推進イメージ

2 具体的な取り組み

(1)地域の人材・組織の育成と水資源の保全

地域においてフィールドミュージアムのまちづくりを担う人材や組織の育成を図るとともに、新たなまちづくり組織と既存の地域組織との連携を進めます。また、入善町の湧水を求めて定期的に訪れている人達などを、町の良好な水資源の保全や活用を応援してくれる賛助者やサポーターとして巻き込みながら、人材、組織の育成を進めます。

【具体的な取り組み例】

- ●地域リーダー・サポーターなどの育成
- ●地域まちづくり組織の育成、既存地域組織との連携 等

(2) 啓発・学習支援活動の推進

入善町において水は、あまりにも豊富にあるがゆえ、町民の意識は、良好な資源という認識はあるものの、それが特別で貴重なものという認識は低く、充分な保全や活用には至っていません。改めて町の水資源の貴重性などの認識を深めるとともに、フィールドミュージアムについての理解を深めていくことが重要であることから、広く町民を対象としたシンポジウムやセミナーなどの開催や広報等による情報提供、学校課外授業での実施などにより、啓発学習支援活動への取り組みを進めます。

【具体的な取り組み例】

- ●シンポジウム、セミナー・勉強会、出前講座などの開催
- ●広報などでの情報提供
- ●学校課外授業での実施
- ●ワークショップの継続開催 等

(3)交流・呼びかけの推進

フィールドミュージアムのまちづくりは、地域の多くの住民の参加と、一人ひとりの取り組みを大切にした活動であり、参加の裾野を広げていくことが重要になります。このため、まちづくりの入口となる地域資源を知り住民の交流を深めるイベントの開催や、イベントや広報活動を通じた呼びかけ・巻き込み活動を推進します。また、町外からの来訪も多い事業では、地域外の支援者との交流を進め、支援の拡大を図ります。

【具体的な取り組み例】

- ●地域資源を知り住民の交流を深めるイベントの開催(ウォークラリー等)
- ●呼びかけ・巻き込み活動(各種イベントや広報の機会を通じて)
- ●地域外の支援者との交流 等

(4) 住民による地域資源の掘り起こし

住民主体のまちづくりの展開に向けては、住民自らが地域の魅力を見出し、その将来について考えていくことが重要になります。住民参加による地域資源調査の実施、調査結果に基づくガイドブックの作成など、地域住民の目線での地域資源の発掘・整理を進めます。

【具体的な取り組み例】

- ●住民参加による地域資源調査の実施(公募やワークショップによる掘り起こし等)
- ●調査結果を活かしたガイドブックの作成(データベース化)
- ●データベースへの情報の蓄積と周遊ルートの開発 等

(5)情報の発信・共有の強化

住民の意識啓発や参加促進を図っていくことに加えて、まちづくりの活発化やレベルアップを図っていく上で、地域資源やそれらを活用した地域づくりの状況について、広く情報を発信し共有しいていくことが重要になります。町広報誌や既存ケーブルテレビ(みらーれTV)の活用をはじめ、地域資源や地域のまちづくりに関して住民の情報交流も可能なフィールドミュージアム専用の情報サイトの整備や、コミュニティFM、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)などの各種メディアの活用・連携を進めます。

【具体的な取り組み例】

- ●定期刊行物、メディアの活用 (広報やケーブルテレビの活用、コミュニティFM、SNS との連携 等)
- ●専用情報サイトの整備 等



第6章 参考資料

■ 委員会名簿

黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画策定委員会

入善町区長連絡協議会 平澤 優 黒部川扇状地研究所 浦山隆一 入善町小中学校校長会 上 島 俊 晴 入善町観光物産協会 西田義 嗣 入善町商工会 井 開 藤 みな穂農業協同組合 松原克 己 入善漁業協同組合 飯 田晃 広 尾山善二 入善町経営者協会 入善町タクシー協会 長島 捷郎 入善里山観光開発(株) 越間敏 郎

黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画専門委員会

富山国際大学 (観光地理学) 助 重 雄 久

梅津將敬

明 石 あおい

田中良一

杉 沢 禎 子

日本大学 (農業地理学) 水 嶋 一 雄

富山県立大学 (地下水) 手 計 太 一

(株)ワールドリー・デザイン代表

NPO地域交流センター理事

(株)エコロの森代表 (観光業) 森田 由樹子

庁内検討委員会

入善町副町長

【検討委員】

副町長 (委員長) 梅津將敬 企画財政課長 竹 島 秀 浩 住民環境課長 上 浦 雄 治 がんばる農政課長 真 岩 芳 宣 キラキラ商工観光課長 梅沢武 志 板倉 教育委員会事務局長 晴

【ワーキングチーム】 企画政策係長

男女共同参画・文化係長

 生活環境係長
 瀧 本 達 也

 農政係長
 上 田 久 志

 商工観光係長
 本 田 裕

■ 基本計画策定の経緯

平成 29 年 8 月 7 日 第 1 回黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画策定委員会

- 基本計画策定体制等について
- 基本計画の策定について

平成29年9月15日 第1回黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画専門委員会

- 基本計画策定体制及びスケジュールについて
- ・基本計画骨子(案)について

平成 29 年 10 月 6 日 第 2 回黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画策定委員会

•基本計画骨子(案)について

平成29年10月23日 第2回黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画専門委員会

• 中核拠点施設の検討について

平成29年11月22日 黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画策定に係るワークショップ

平成 29 年 11 月 27 日

平成30年1月9日 第3回黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画策定委員会

• 基本計画原案について

平成30年3月2日 第4回黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画策定委員会

・基本計画(案)について

■ ワークショップ開催の要旨

日 時: 平成 29 年 11 月 22 日 (第 1 回)

平成 29 年 11 月 27 日 (第 2 回)

場 所:うるおい会館 2階会議室

参加者:

旅行商品造成

徳 光 典 子景観スポット

島 瀬 航

(山 崎 渉)

(高橋昌美) 長島克己

移住定住 森 翔 平

地域おこし協力隊 中嶋 舞

二次交通提供 野田紀博

交通事業者 長島克己

藤井直

岩 場 文 野 商工会青年部

米澤元両大輔

みな穂青年部 杉 田 美紀子

観光物産協会 上原直子

役場職員:ファシリテーター 田中良一

オブザーバー 竹島 企画財政課長

梅澤 キラキラ商工観光課長

検討の視点:

- ① 中核拠点施設のあり方と魅力づくり
- どうすれば楽しい施設となるか?
- どのような施設とするべきか?
- どこがよいのか?
- ② サテライトを巡る仕組みやコースづくり
- どうすればサテライトを巡ってもらえるか?
- 撮影スポットはどこか?
- 移動手段はどうするか?
- 旅行商品になりえるか?

検討結果の要点:

① 中核拠点施設のあり方と魅力づくりについて

- ・中核拠点施設は是非必要。
- ・物販コーナー、カフェコーナーを設置して欲しい。
- ・楽しく歴史を知るためのストーリーナビゲーター機能は是非必要。
- ・水博士になる子どもを育てるような水検定を実施する。
- ・扇状地にちなんだ遊具など、子どもが遊べるコーナーが欲しい。
- ・ARやVRなど大人も子どもも楽しめる展示が欲しい。 等

② サテライトを巡る仕組みやコースづくり

- ・季節別におすすめのサテライトを絞って紹介する。四季ごとのマップを作る。
- ・9月の黄金色した稲穂が素晴らしい。
- ・サインを設置し河岸段丘の場所を示す。
- ・山を見る絶景スポット
- ・雨や雪を楽しめる散策ルートを作成する。
- ・天候に左右されない屋根のあるサテライトスポット。
- ・川下り、釣りなどの体験プログラムが欲しい。
- ・昔のくらしを見せてもらい体験したい。
- ・天然のホタルを保護し、飼育する。
- ・わさび栽培や観光農園。
- ・とても恵まれた、海・里・山の食材を活かした名物料理をつくる。
- ・空からの景観、海からの景観を紹介する。
- ・サテライトや撮影スポットには休憩できるおしゃれな椅子が欲しい。
- ・扇端部エリアの交通手段の確保。 等